

一〇月の中東は軍事的、外交的、また、人民の闘いと激しく燃え上がった。ガルフ情勢はイランのクウェート領海内での米国籍に移籍したクウェート・タンカーへの攻撃と米帝のイランのオイル・プラットホームへの攻撃として、イランと米帝が戦闘状態に入り、ガルフの停戦は遠のいた。

また、被占領地の闘争は、エルサレムのアル・アクサ・モスクへの極右シオニストによる攻撃とそれに対

するパレスチナ・アラブ人民の闘いとして、ガザ、西岸で拡大した。シオニストの闘いに対する弾圧に、さらには闘いの炎は拡大している。

レバノンでは、通貨価値が一ドル六〇〇ポンドにまで低下し、レバノン人民の生活は危機的な状況となつた。それは、レバノンの政治危機をさらに拡大させることになつてい

動きが活発化した。このアラブ首脳会議の中心課題は、対イランでの統一した立場をつくることについた。また、パレスチナ問題、レバノン問題などの諸問題の動向を左右する会議であった。

今日はこのアラブ緊急首脳会議を中心しながら、中東情勢をみていくたい。

一 アラブ首脳会議の結果の展望
アラブ緊急首脳会議は、一月八

日から一〇日までヨルダンの首都アンマンで開かれた。この会議では、ガルフ問題のみならず中東での死活的な問題を左右するものとして注目されていた。この緊急首脳会議は、直接的には九月二〇日に開かれたアラブ緊急外相会議の決定にもとづいて開かれている。九月の緊急外相会

ガルフ戦争の拡大とアラブ首脳会議

一九八七年一一月一〇日

目次

ガルフ戦争の拡大とアラブ首脳会議	1
ヨルダン－イスラエルの秘密共同（資料①）	8
ムスタファ・サエド氏インタビュー（資料②）	12
紛争間際の国際帝国主義（資料③）	14
パレスチナ解放人民戦線政治局声明（資料④）	16
激動の中東ドキュメント（1987年10月7日～11月1日）	18



第 29 号

発行 ウニタ書舗
東京都千代田区神田神保町1-52
TEL. (03) 291-5533
編集 J. R. A.
郵便振替 東京1-48443
三菱銀行神保町支店 当座9012656
会員制 年会費20000円

かつたというものである。イラク、クウェートとともに対イラン強硬姿勢を貫いてきたにもかかわらず、その首脳が出席していないことは、彼らがいかにイランをおそれているかを示すものである。

また、もうひとつ象徴的なことはPLOのアラファト議長への対応であった。ひとつは、議長のアンマン到着のさいに国家元首としての扱いを受けなかつたことであり、もうひとつは、会議でのPLOの呼称が「パレスチナ人の唯一合法代表」から「唯一」が抜かれ「パレスチナ人の合法代表」とのみなでいたことである。今年はじめのイスラム首脳会談でのアラファト議長に対する扱いと同様に、PLOの政治的な位置の低下を物語る扱いであつた。

会議においては、アラブ反動とシリアルアの間での駆け引きが中心であり、アラブ反動はシリアルに対し、イスラムとの関係の清算を迫り、イラクとの和解を図ろうとした。また、イラクへの制裁の問題では、アラブ反動は、イランの国連からの追放を決議させようとしていた。しかし、これもシリアルなどの反対で、強硬な決議はできなかつた。

現在までに明確になつてゐる会議

の結論として、参加アラブ諸国は、イランの脅威とイスラエルの危険性に対して、アラブが統一して対応することを決議したにどまり、伊朗に対することは、国連決議五九八に従うように呼びかけた。

シリアルは、イラクとの和解を承認し、イランによるバスマ近郊のイラク領土の占領とクウェート攻撃への反対に同意したが、イランとの関係の清算は行わなかつた。また、対イラク強硬策に反対し、イラクとの關係でも、首脳会議とは別に個別会議を行つたという報道を否定している。エジプトのアラブ連盟への復帰問題では、アラブ連盟への復帰は拒否するが、各国個別の関係づくりには反対しないという妥協的なものになつた。

そして、前線諸国への援助強化と経済危機にあるレバノンへの財政援助を決定した。

首脳会議でのこれらの結果を見たとき、その動向が注目されていたシリアルが、その基本的な立場を変えず、アラブ反動との妥協を行つたことが明確である。イランへの強硬策エジプトのアラブ連盟への復帰は阻止することができたが、対イランへ止の統一した立場、エジプトとの個別

的な関係性を承認することになつてゐる。

対シリア援助増大を条件に、イラ
ンとの関係を再考してもよいといふ
シリア提案に対し、アラブ反動側
がそれをのまなかつた――といふ噂
が会期中に流れだが、この結果を目的
にれば、それが、シリアの戦術的なも
のとしてあつたことは確実である。
シリアは、イランとの関係という
鍵を握つたまま、前線国としての経
済援助を獲得した。また、今年はし
めのイスラム諸国会議と同様に、シ
リアとしての基本的な立場を貫くこ
とに成功しているが、反動の流れ
そのものを阻止することはできず、
結果として、妥協的な決議になつて
いる。

同時にこれは、アラブ反動にとつ
ては、またしても対イラン強硬策を
とることに失敗したということであ
り、エジプトとの関係確立を合法化
したことなどが唯一の成果である。シリ
アとイラクの関係改善は、本質的に
は、シリアがイランとの関係を切る
ことによつてしか成り立たず、この
関係改善もシリアの戦術でしかない
次に、この緊急アラブ首脳会議に
至る情勢を見ていきたい。

二 アラブ緊急首脳会議を取り巻く情勢

情勢

二 アラブ緊急首脳会議を取り巻く情勢

アラブ緊急会議へ持ちこした形となつてゐた。

この問題は当然この首脳会議の中心議題となるものであつた。しかしイラクに対するアラブの統一した立場をつくれるかどうかであつた。とりわけ、これまでイランとの関係を維持し、対イラン強硬策に反対してきたシリアがどのような態度をとるのかが注目されていた。アラブ諸国にとつては、シリアにイランとの関係を断絶させ、イラクとの和解を図ることが目的であった。

第二は、エジプトのアラブへの復帰問題である。エジプトは、イスラエルとの単独和平を行いアラブ民族の大義を裏切ったことからアラブ連盟から追い出され、また、アラブ諸国から関係を断絶されていた。しかし、ガルフ戦争を契機にアラブ反動は、イスラエルとの関係を既成事實としたまま、エジプトを復帰させよ

うとする動きを強めていた。サウジアラビア、クウェートなどのGCC諸国、ヨルダンなどが、実質的に、エジプトとの関係を回復させてきた主要には、対イランでの軍事力の強化の必要から、GCC諸国はエジプトとの関係を強化してきた。アラブ反動は、この首脳会議でエジプトの復帰をはかるために策動してた。この強硬な反対者はシリアであったPLOは、非公式ではあれ、すでにエジプトとの関係を回復しており、強硬な反対者ではなくっている。エジプトとの関係に反対しているのは、PLO内のPFLPなどの左派シリーズ、リビア、アルジェリアなど、の反帝進歩勢力である。

第三に、パレスチナ問題である。これは、国際中東和平会議へのアラブの立場の統一の問題だけでなく、PLOとジリアの和解の可能性について注目されていた。

第四に、レバノン問題である。ジェマイエル大統領が、シリアが仲介した改革への合意を拒否して以来、シリアとの関係が悪化していた。それによってレバノンでは政府の機能がとまり、政治危機が続いていた。それが経済危機を呼び、深刻な事態となっていた。ジェマイエルは、ア

ラブ反動の力を使ってシリアに圧力を加え、自らの立場を有利にしようとした画策していた。

出席することは利益にならないと考えていたためであった。しかし、同時に不参加はアラブ反動の独走を許し、とくにエジプトの復帰などのアラブの大義に関わる問題がアラブ反動の手で押し進められようとしていること、また、レバノン問題においてもレバノン大統領ジェマイエルがアラブ反動を使ってシリアへの圧力をつくりだそうとする動き、そして経済的に困難にあるシリアにとって前線諸国への援助の確保など、重要な問題があった。

結局不参加となつたのは、リビアのカダフィイ大佐、モロッコのハッサン国王、そして、サウジアラビアのファハド国王であった。ハツサン国王は、アラブの統一した立場をつくることは無理で意味がないとして、出席を拒否した。意外なのはファハド国王の不参加であった。この首脳会議の実質的な呼びかけ人であるフアハド国王の不参加はさまざまな憶測を呼んでいた。とくにうがつた見方としてあるのは、米国で出版されたCIAを暴露した『ベイル』でハジビッラーの指導者の暗殺計画、その後の買収に金を出していたことなどが暴露されており、シア派モスレムによる暗殺をおそれで出席しな

議を行っている。また、日帝などが肩代りしようとしている。

アラブ反動諸国も対イラン・強硬策を主張するが、戦争の拡大は望んでおらず、米帝との矛盾が起こることは明確である。イランとのなんらかの和解を求めざるをえないようになるだろう。

イランの中東での同盟国であるシリアは、アラブ反動の要求をのんびりと切るより、関係を続けることのほうが有利である。なぜなら、主導権がイランにあり、米帝が力でイランを抑えようとして、抑えきれず、逆に米国内の矛盾が激化することになるからである。アラブ諸国は、そうなれば、再びイランとの和解を求めざるをえないし、それはシリアの存在を必要とする。

(2) 被占領地

被占領地パレスチナでは、二つの象徴的な事件を契機として、パレスチナ・アラブ人民の闘いが拡大した。その第一の事件は、一〇月六日に起つた。ガザ市内でイスラエル兵とパレスチナ戦士の交戦で、パレスチナ戦士四人戦死、シオニストを一名せん滅した事件である。これはガザ市内を、車で移動中の戦士をシオニ

スルが止めようとしたのに対し、

銃撃戦となつた。

この戦士たちは、PLOの組織で

はなく、イスラミック・ジャーハードの

メンバーで、モスレム原理主義者の

二人は、シオニストの獄中から脱

獄し、ガザで活動していた。

その後、ガザで学生、生徒たちが

シオニストに抗議して、闘いを開始

した。

第二の事件は、一〇月一日、極

右シオニストの集団が、モスレムの聖地であるアル・アクサ・モスクに入つたことに對して、二〇〇〇人の

パレスチナ人がエルサレムで抗議デモを行い、シオニストの警官隊と衝突した事件である。この衝突で五〇

人のパレスチナ人が負傷した。それ

は、即日ガザでのパレスチナ人民の決起を生み、学生を中心シオニス

ト軍と闘つた。そして、翌一二日に

西岸に広がり、学生、生徒たちの

シオニスト軍との闘いとなつた。シ

オニストは無防備な学生たちに銃撃

をあびせ、そばにいた三五歳のパレ

スチナ人の母親を射殺した。また、

アラブ人民への抑圧政策を強めてお

る、それがパレスチナ人民の怒りとなつて、シオニスト・イスラエ

被占領地での過酷な弾圧をうけるパ

レーガンが「なにもパニックに陥るものはないと思う。我々はうまくやつていると考えている」と、わざわざ言わざるをえなくなつた。大暴落は、米帝が軍事介入の泥沼にはまつていくことへの不安が米国内の経済危機と一体化して起つたものである。いくらレーガンが「米軍は戦争を始めるためにガルフにいるのではない」と説明しても、誰の眼にもそれは戦争行為以外の何ものでもない。

ガルフ戦争の停戦とは無縁なものであり、ガルフ戦争を拡大させるものである。

イランのハメネイ大統領は直ちに反撃の声明を出した。米帝が戦争への直接介入を行つてることを明確にし、米帝がベトナムと同様の戦争の泥沼にはまりこんだ、と語った。

この米海軍の攻撃に對して、英國サッチャーワークは、「絶対的に正しい」と全面支持を表明し、日帝、西独帝は、控え目に「理解できる」と支持を表明した。しかし、イタリアなどの他の同盟諸国は、戦争の拡大への懸念を表明し、同盟諸国内での態度の相違が見られた。

ソ連は、米帝の行動を即座に非難し、ガルフでの航行の安全とは無縁なものであることを明確にした。

この戦士たちは、PLOの組織ではなく、イスラミック・ジャーハードの戦士たちだった。この戦死した戦士の二人は、シオニストの獄中から脱獄し、ガザで活動していた。

その後、ガザで学生、生徒たちがシオニストに抗議して、闘いを開始した。

この戦士たちは、PLOの組織ではなく、イスラミック・ジャーハードのメンバーで、モスレム原理主義者の二人は、シオニストの獄中から脱獄し、ガザで活動していた。

米帝は、戦争権限法を発動させ、レーガンは、軍事行動の制限は、ガルフでの攻撃を非難する立場に立つていて。

レーガン政権は、国内的に戦争政策への支持を得られず、米国議会は、戦争権限法を発動させ、レーガンの軍事行動に歟止めをかけようとした。これに対して、レーガンは、軍事行動の制限は、ガルフでの米帝に対する信頼を失わせる、と反発している。また、これは戦争ではない、米国船の「防衛」である、と強調している。

しかし、米国上院は、一〇月二二日、ガザで学生、生徒たちがシオニストに抗議して、闘いを開始した。

一方、イランとイラクの戦争はますます拡大している。イラクは、伊朗のタンカー、石油積み出し施設への攻撃にとどまらず、iran内の

米帝はすでにイランとの戦争の泥沼にはまっているのである。

それは、財政赤字で悩む米国の経済にも深刻な影響を与えるだろう。

すでに議会では、一〇月十五日に下院の委員会でクウェートに護衛の費用を毎回二五万ドルずつ払わせる決

議を行つて、米帝は、これ以上の

行動を非難する立場に立つていて。

レーガン政権は、国内的に戦争

政策への支持を得られず、米国議会は、戦争権限法を発動させ、レーガンの軍事行動に歚止めをかけようとした。これに対して、レーガンは、軍事行動の制限は、ガルフでの

米帝に対する信頼を失わせる、と反発している。また、これは戦争ではない、米国船の「防衛」である、と強調している。

しかし、米国上院は、一〇月二二日、ガザで学生、生徒たちがシオニストに抗議して、闘いを開始した。

一方、イランとイラクの戦争はますます拡大している。イラクは、イ

ランのタンカー、石油積み出し施設への攻撃にとどまらず、iran内の

米帝はすでにイランとの戦争の泥沼にはまっているのである。

それは、財政赤字で悩む米国の経

済にも深刻な影響を与えるだろう。

すでに議会では、一〇月十五日に下

院の委員会でクウェートに護衛の費

用を毎回二五万ドルずつ払わせる決

議を行つて、米帝は、これ以上の

行動を非難する立場に立つていて。

レーガン政権は、国内的に戦争

政策への支持を得られず、米国議会は、戦争権限法を発動させ、レーガンの軍事行動に歚止めをかけようとした。これに対して、レーガンは、軍事行動の制限は、ガルフでの

米帝に対する信頼を失わせる、と反発している。また、これは戦争ではない、米国船の「防衛」である、と強調している。

しかし、米国上院は、一〇月二二日、ガザで学生、生徒たちがシオニストに抗議して、闘いを開始した。

一方、イランとイラクの戦争はますます拡大している。イラクは、イ

ランのタンカー、石油積み出し施設への攻撃にとどまらず、iran内の

米帝はすでにイランとの戦争の泥沼にはまっているのである。

それは、財政赤字で悩む米国の経

済にも深刻な影響を与えるだろう。

すでに議会では、一〇月十五日に下

院の委員会でクウェートに護衛の費

用を毎回二五万ドルずつ払わせる決

議を行つて、米帝は、これ以上の

行動を非難する立場に立つていて。

レーガン政権は、国内的に戦争

政策への支持を得られず、米国議会は、戦争権限法を発動させ、レーガンの軍事行動に歚止めをかけようとした。これに対して、レーガンは、軍事行動の制限は、ガルフでの

米帝に対する信頼を失わせる、と反発している。また、これは戦争ではない、米国船の「防衛」である、と強調している。

しかし、米国上院は、一〇月二二日、ガザで学生、生徒たちがシオニストに抗議して、闘いを開始した。

一方、イランとイラクの戦争はますます拡大している。イラクは、イ

ランのタンカー、石油積み出し施設への攻撃にとどまらず、iran内の

米帝はすでにイランとの戦争の泥沼にはまっているのである。

それは、財政赤字で悩む米国の経

済にも深刻な影響を与えるだろう。

すでに議会では、一〇月十五日に下

院の委員会でクウェートに護衛の費

用を毎回二五万ドルずつ払わせる決

議を行つて、米帝は、これ以上の

行動を非難する立場に立つていて。

レーガン政権は、国内的に戦争

政策への支持を得られず、米国議会は、戦争権限法を発動させ、レーガンの軍事行動に歚止めをかけようとした。これに対して、レーガンは、軍事行動の制限は、ガルフでの

米帝に対する信頼を失わせる、と反発している。また、これは戦争ではない、米国船の「防衛」である、と強調している。

しかし、米国上院は、一〇月二二日、ガザで学生、生徒たちがシオニストに抗議して、闘いを開始した。

一方、イランとイラクの戦争はますます拡大している。イラクは、イ

ランのタンカー、石油積み出し施設への攻撃にとどまらず、iran内の

米帝はすでにイランとの戦争の泥沼にはまっているのである。

それは、財政赤字で悩む米国の経

済にも深刻な影響を与えるだろう。

すでに議会では、一〇月十五日に下

院の委員会でクウェートに護衛の費

用を毎回二五万ドルずつ払わせる決

議を行つて、米帝は、これ以上の

行動を非難する立場に立つていて。

レーガン政権は、国内的に戦争

政策への支持を得られず、米国議会は、戦争権限法を発動させ、レーガンの軍事行動に歚止めをかけようとした。これに対して、レーガンは、軍事行動の制限は、ガルフでの

米帝に対する信頼を失わせる、と反発している。また、これは戦争ではない、米国船の「防衛」である、と強調している。

しかし、米国上院は、一〇月二二日、ガザで学生、生徒たちがシオニストに抗議して、闘いを開始した。

一方、イランとイラクの戦争はますます拡大している。イラクは、イ

ランのタンカー、石油積み出し施設への攻撃にとどまらず、iran内の

米帝はすでにイランとの戦争の泥沼にはまっているのである。

それは、財政赤字で悩む米国の経

済にも深刻な影響を与えるだろう。

すでに議会では、一〇月十五日に下

院の委員会でクウェートに護衛の費

用を毎回二五万ドルずつ払わせる決

議を行つて、米帝は、これ以上の

行動を非難する立場に立つていて。

レーガン政権は、国内的に戦争

政策への支持を得られず、米国議会は、戦争権限法を発動させ、レーガンの軍事行動に歚止めをかけようとした。これに対して、レーガンは、軍事行動の制限は、ガルフでの

米帝に対する信頼を失わせる、と反発している。また、これは戦争ではない、米国船の「防衛」である、と強調している。

しかし、米国上院は、一〇月二二日、ガザで学生、生徒たちがシオニストに抗議して、闘いを開始した。

一方、イランとイラクの戦争はますます拡大している。イラクは、イ

ランのタンカー、石油積み出し施設への攻撃にとどまらず、iran内の

米帝はすでにイランとの戦争の泥沼にはまっているのである。

それは、財政赤字で悩む米国の経

済にも深刻な影響を与えるだろう。

すでに議会では、一〇月十五日に下

院の委員会でクウェートに護衛の費

用を毎回二五万ドルずつ払わせる決

議を行つて、米帝は、これ以上の

行動を非難する立場に立つていて。

レーガン政権は、国内的に戦争

政策への支持を得られず、米国議会は、戦争権限法を発動させ、レーガンの軍事行動に歚止めをかけようとした。これに対して、レーガンは、軍事行動の制限は、ガルフでの

米帝に対する信頼を失わせる、と反発している。また、これは戦争ではない、米国船の「防衛」である、と強調している。

しかし、米国上院は、一〇月二二日、ガザで学生、生徒たちがシオニストに抗議して、闘いを開始した。

一方、イランとイラクの戦争はますます拡大している。イラクは、イ

ランのタンカー、石油積み出し施設への攻撃にとどまらず、iran内の

米帝はすでにイランとの戦争の泥沼にはまっているのである。

それは、財政赤字で悩む米国の経

済にも深刻な影響を与えるだろう。

すでに議会では、一〇月十五日に下

院の委員会でクウェートに護衛の費

用を毎回二五万ドルずつ払わせる決

議を行つて、米帝は、これ以上の

行動を非難する立場に立つていて。

レーガン政権は、国内的に戦争

政策への支持を得られず、米国議会は、戦争権限法を発動させ、レーガンの軍事行動に歚止めをかけようとした。これに対して、レーガンは、軍事行動の制限は、ガルフでの

米帝に対する信頼を失わせる、と反発している。また、これは戦争ではない、米国船の「防衛」である、と強調している。

しかし、米国上院は、一〇月二二日、ガザで学生、生徒たちがシオニストに抗議して、闘いを開始した。

一方、イランとイラクの戦争はますます拡大している。イラクは、イ

ランのタンカー、石油積み出し施設への攻撃にとどまらず、iran内の

米帝はすでにイランとの戦争の泥沼にはまっているのである。

それは、財政赤字で悩む米国の経

済にも深刻な影響を与えるだろう。

すでに議会では、一〇月十五日に下

院の委員会でクウェートに護衛の費

用を毎回二五万ドルずつ払わせる決

議を行つて、米帝は、これ以上の

行動を非難する立場に立つていて。

レーガン政権は、国内的に戦争

政策への支持を得られず、米国議会は、戦争権限法を発動させ、レーガンの軍事行動に歚止めをかけようとした。これに対して、レーガンは、軍事行動の制限は、ガルフでの

米帝に対する信頼を失わせる、と反発している。また、これは戦争ではない、米国船の「防衛」である、と強調している。

しかし、米国上院は、一〇月二二日、ガザで学生、生徒たちがシオニストに抗議して、闘いを開始した。

か攻撃したことから、これまで仲介の労をとつてきたサアドが仲介を拒否し、実行がストップしたままになつてゐた。そして、キャンプの内と外とで、再び戦闘になつていつた。

こうした状況を開拓するために、一月二日、アルジェリア政府の仲介で、アルジエで、パレスチナ勢力を代表して D.P.L.E のハワトメ議長とアマル運動のベリとの会談が行われた。そして、食糧、再建物資、医薬品のキャンプへの搬入が確認された。

アマル内では、ハジビッラーへ移る者が多くなつてゐた。執行委員会内でも、ハジビッラーに協力しているという理由から、委員長が解任されている。後任は、南部のアマルの指導者で、シオニストとの共同で悪名の高いダウド・ダウドであつた。

その彼の初仕事は、ハジビッラー系新聞の南部での配布禁止である。アマルは、ますますその勢力を弱めており、現在の経済的危機のなかで、いつそう困難になつてゐる。

ハジビッラーは、パレスチナ勢力と共に、南部における対シオニスト・ゲリラ戦を強化している。パレスチナ勢力がやりえなかつた南部住民を基盤としたゲリラ戦を原則的に展開中である。これに対抗するため

④ シリアの動向

シオニストの側は、九月段階で、住民をゲリラから隔離する戦略村政策をとり始めた。レバノン政府は、シオニストによる南部併合の策動であるとして、国連へ提訴している。シオニストとその手先ラハドー派は、南部レバノンのパレスチナ・キャンプ、シーア派の村々への攻撃を強めている。一月二日の空爆で、四〇人を殺し、二〇人を負傷させた。

④ シリアの動向

シリアでは、アラブ緊急首脳会議を開催にひかえた一〇月三一日、七年間続いたカゼム内閣が総辞職した。人民議会がこの四ヶ月で四人の閣僚を汚職とミスマネージメントで不信を任決議採択していったことを契機とした辞職であった。一月一日にはモハメッド・ゾウビ国会議長が新首相に指名され、ただちに組閣に入つた。

これは、低迷するシリア経済の問題である汚職とミスマネージメントの結果として、人民の生活の基本である食糧供給に障害が現れたことによる。カセム内閣も、汚職で四人の高級官僚を処刑する等、きびしい政策をとってきたが、根本的に問題の解決を図ることはできなかつた。新

である。した

首相は農業技術者で、一貫して農業面での活動を行ってきた。新内閣は汚職とミスマネージメントの克服と共に、深刻化している食糧の生産と供給の問題を解決することに、基本をおいている。

この内閣の性格は、自力更生による経済の根幹づくりにあり、これはシリアの外交路線に変化がないことを意味している。経済的に孤立化させられても、食糧自給を行うことにより、対応していくとしているのである。したがって、シリアは、今後も、反帝の方向での外交展開、また、イランとの関係の維持を続けていくと考えられる。

PLOとの和解問題では、PLO代表団がシリアを訪問し、シリア代表と話し合い、またソ連が両者の和解のための努力を行っていた。PLOの側は、シリアが非難する対エジプト関係について、「非公式なものであり、公式的なPLO－エジプト関係ではない」と説明している。しかし、対エジプト関係、レバノン問題での両者の対立は、容易に解決しない問題である。シリアは、話し合いの継続には合意しているが、アラブ緊急首脳会議で和解へ到るといふのは、むずかしい状況にある。

米帝によるイランのオイ

米帝によるイランのオイル・プラットホーム攻撃は、ニューヨーク株式市場の大暴落をもたらした。同時に、この大暴落は、米国経済とドルに依拠する中東諸国に深刻な影響を与えている。

イスラエルでは、株価が暴落し、一週間で七億五〇〇〇万ドルの損失をこうむつた。すでに危機的な状況にあるイスラエル経済に深刻な影響を与えていた。それはまた、長期的には、米国経済の悪化は、イスラエルの生存を支えてきた米国の軍事・経済援助の削減をもたらすことになる。それがもともと深刻な問題である。イスラエルの軍事・経済は、米帝からの援助ぬきには成立しない構造にあるからである。米国議会ではすでに、対外援助削減が検討され始めている。

また、株の暴落と、それに続いたドルの価値のさらなる低下は、ドルで支払いをうけ、ドルでの投資を行っている産油諸国に、深刻な影響を与えている。O P E Cは、八六年度統計でみたとき、石油輸出は前年度比四一・五%減、収入が前年度比五八・四一%低下している。こうした収入の悪化は、原油価格値上げの要

第二の事件は、シオニスト内部で危機感をもつ極右シオニストの動きの活発化を意味している。これはシオニスト占領軍の過酷な弾圧とあわせて、シオニストとパレスチナ人民の闘いを非和解的なものにしている。

③ レバノン危機

レバノンでは、政府が機能停止のまま、ついにレバノン・ポンドが一ヶ月の間に半分の価値となり、人民は生存の危機的な状況におかれている。こうした生活の困難に対し、東西ベイルートの壁を越えて、一ヶ月に入つてから、四日間にわたるストが続けられた。ベイルートの街は完全にゴースト・タウンとなり、すべてがストップし、内戦やシオニストの包囲封鎖のなかでも飢えることがなかつたベイルートが、初めて飢えを知ることになつた。人々は、ストで何もかもがストップすることをまた、食糧がなくなることを知つて抗議のストを行つてゐる。

先月の終わりに一〇〇%の賃上げ

レバノンでは
まま、ついにレ

ドルから一四ドルに低下してしまつたのである。商人たちは、ポンドの価値下落のあまりの急激さに、商品の価格表示を米ドルで行うようになった。レバノン人は、卵ですら買うことが困難になつてゐる。

ベイルートの東西の労働者と市民は、ドルの打倒、内戦反対を叫び、東西分断反対のスローガンを叫びながら、東西を分ける博物館の前まで東西からデモを行い、合流した。このデモは、レバノンの労働総同盟の組織したものだが、東西の市民を巻きこみ、強大なデモとなつた。改革を拒否するジェマイエル大統領、そして大統領をボイコットする閣僚ということから、政府は機能マヒし、このような事態を招いてしまつてゐる。

ジェマイエル大統領を拒否しているのは、モスレム側だけではない。キリスト教右派も、ジェマイエルを孤立させてゐる。キリスト教右派はLF（レバニーズ・フォーシズ）を率いるサミール・ジャジャがその主

右派内の対立
介入をもたら

でに、その矛盾が拡大し、右翼内部での内戦が行われようとした。そのとき、シユルツに同伴してイスラエルを訪問していた米国務省北アフリカ・西アジア局長リチャード・マーフィーは、急遽シリアとレバノンを訪問し、レバノン大統領シリアの和解を計ろうとした。これは右派内の対立が、東側へのシリアの介入をもたらす危険性の阻止のためであつた。ジェマイエルは、マーフィーを通してシリアとの和解を申し入れたと言われているが、結果はうまくいかなかつた。その後、一〇月二五日、ジェマイエルは、急遽、力イロへ飛んだ。

ジェマイエルは、モスレム左派地区へのシリア軍の展開とのバランスをとり、シリアに対する自らの立場を有利にするために、アラブ諸国と欧州諸国に、右翼地区への軍の展開を求めていると言われていた。またジェマイエルは、カイロ訪問後、UAE、クウェートへ飛んだ。これはサミット前にアラブ反動を工作し、

レバノン改革案を拒否した
エルの追い落としを計ろう

ジャジャ派は、来年の大統領選にむけたジェマイエルとの対峙を強めようとしている。ジャジャは、ジェマイエルよりも強硬な反シリア派であり、シリア軍の撤退をかちとることを中心にしており、シオニストと共にしている。

シリアもまた、シリアの後援するレバノン改革案を拒否したジェマイエルの追い落としを計ろうとしている。シリアは、右翼内の矛盾拡大を望んでおり、それに伴って、右翼地区の支配権をLFから奪回し、右翼地区からも民兵政治をなくしていくとしている。

モスレム左派地区では、パレスチナ勢力とアマルの間で、「キャンプ戦争」終結へむけた和解に達成したものの（「九・一一合意」）、その実行過程でストップしたままになってしまった。とくに、パレスチナ勢力が、サイダのキャンプを見おろす戦略的要衝から引き、緩衝軍としてムスター・ア・サアドのPLA（人民解放軍）が間に入った。そのPLAをアマル

の闘争をうちこわす共同統治をおしつけようともくろんでいるのである――

「西岸、ガザ地区住民の生活水準向上」等のスローガンを掲げてきた。これは、ペレスがまだ首相であった八五年一〇月一日の合意に基づいて共同統治権行使していくための公然のカバーなのである（付帯資料参照）。この合意成立以来、ヨルダン政府は、共同統治推進のために全力を注いできている。西岸、ガザの住民が選出した合法な市町長をイスラエルが解任し、代りに任命した市町長をヨルダンが支持したが、それは共同統治の推進のためであった。そして、その数ヶ月後、フセイン国王は、PLO指導部との連携を中止しPLOにかわる指導部を探すか、作る方向をとった。そして、その後、ヨルダンとつながるパレスチナ・ブルジョアジーのより広範な層に経済基盤を与えるべく、西岸、ガザ開発五ヵ年計画を作った。さらに、六七年の戦争で占領された地区に、ヨルダン銀行支店を数ヵ所再開したのである。

アセインの全面投降

破棄を行つたので、ヨルダン政府は失望した。にもかかわらず、ヨルダン政府は、米帝の中東政策の成功にむけ邁進することを再確認し、自らの政策を堅持してきたのである。

それに比べると、「イスラエル」は、ヨルダンとの取引を守りきっていない。入植村建設を続け、被占領地の軍事力削減は行わず、西岸、ガザの軍事支配廃止には一向にむかっていない。ペレスが約束したような住民の生活の質向上、自分たちの問題を自分たちで運営するために権限を拡大するということにはならなかつた。

ており、その国際会議の参加者を事前に設定してしまっていること、パレスチナ人代表はヨルダン・パレスチナ合同代表団のなかに含まれることを意味するからである。ソ連の参加についても、ヨルダン政府は、イスラエル側が出した条件に、理解を示した。

さらに、国際会議を、直接的・二国間交渉へ到る最初の一歩とすべきとする米・イスラエルの要求にも屈している。これは、完全な強制力をもつて会議を要求してきた従来の立場を放棄しているので、最も危険な側面なのである。

米のもくろみへの障害

ヨルダン政府が、こうしてイスラエルとの秘密共同を進め、米・イスラエルの条件をのんでいるのは、米国が進めている中東問題解決にとっては前進なのだが、種々の主要な障害が未解決である。

まず、パレスチナ・レベル、アラブ・レベルでの二つの障害がある。それは、パレスチナとアラブの支持がなければ、フセイン国王は、ペレスとの国際会議合意を実行に移せないという問題である。とりわけ、P

界第一の債権国たる日帝の動向は、注目的目的である。しかし、日帝が行ったことは、ガルフに対する米帝の軍事介入への加担にとどまらず、米帝からの援助削減で困難になるシオニスト・イスラエルの経済開発計画への援助、また、イスラエルからの輸入の四〇%増を約束するなど、米帝の中東支配を補完している。

この経済的矛盾は、イスラエルの立場を困難にし、それがいつそうシオニスト内の分裂状況を拡大することになる。アラブ諸国においては、収入の減少がさらに進み、ガルフでの戦争状態を終わらせること、その拡大をいつそうすることになるだろう。また、シオニストとの和解を求める動きが活発になっていく。

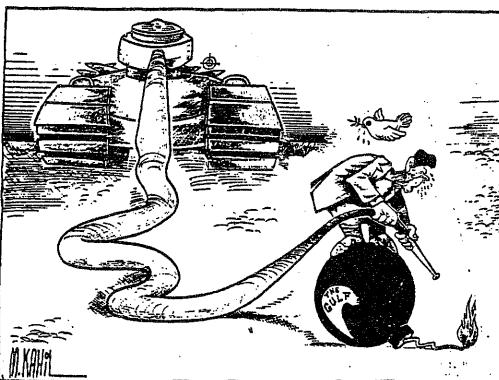
ジプトの復帰を認めしたことになつて、アラブ反動が、今後、エジプトを軸にイスラエルとの直接交渉へ流れっていく道を広げることになつていている。アラブ反動が、LOの政治的な地位のいっそうの低下をもたらす。PLOは被占領地の人民の闘いの発展にもかかわらず、危険性を増した。それは、また、PLOの妥協的な姿勢を越えて闘う新たな世代を生み出すことになつていて、これは、PLO自身のあり方を問うものである。

アラブ反動諸国との関係では、米帝の軍事介入の度合が強まれば、強まるほど、湾岸の反動諸国へ戦火が拡大することになる。それはアラブ反動諸国の望むところではなく、イランとの関係をなんらかのかたちで平和的なものにする方向をとることになるだろう。

いずれにしても、今回のイランのオイル・プラットホームに対する米帝の攻撃が、株の大暴落になつたことは象徴的である。

日帝は、近視眼的に、このような末期的な米帝の中東支配に加担しようとしている。これは、なんら日帝の利益となることはないだろうし、ガルフでの紛争の拡大とともに、米帝の王力が強化され、ますます、そ

資料①
ヨルダン—イスラエルの秘密共同



米国の和平努力が続いていると米国絡のなかにあるものである。米国の和平努力が下火になるかどうかとは別に、こうした会談は、種々の根拠から危険なものだ。被占領パレスチナ領土の八五%から撤退する意向をもち出すだけで、和平とひきかえに領土回復の可能性があるとするヨルダンのデマ的主張が、真実味を帯びることになる。同時に、ヨルダンがイスラエル側と会談を重ね、合意なるものを積み上げると、アラブ世論パレスチナ世論を徐々に、イスラエル国家の承認、イスラエルとの直接交渉に慣れさせていく手段となるのである。この心理戦は、シオニスト帝国主義のつきつけてくる条件に最後には、投降してしまふところまで進むであろう。

付 蒂 資 料

正な解決策とか、七四年のアラブ・ペルで公認されたPLOの位置、つまり、パレスチナ人の唯一合法の代表、を認めると言いつつ、ヨルダン政府は、PLOもパレスチナの権利も完全に度外視したものでしかない二国間解決策に進むつもりがあることを示している。これまでのところは、「イスラエル」と公式な二国間交渉を行う条件が整ってはいない。しかし、中東の人民と資源を、米シオニスト一反動の支配下におかんとするヨルダン政府の反動的政策に対決していく必要性は、低まるわけでもない。

A 覚え書き

一、西岸、ガザ地区のほとんどから
の段階的撤退。

二、西岸、ガザ地区の八五%を、ア
ラブの監督下、もしくは統轄下に
おく。

三、イスラエル軍に数年間、ヨルダ
ン渓谷沿いの防衛拠点（複数）保
持を認める。

四、アラブ統轄下の西岸で、イスラ
エル人が住むことを認める。

五、統一エルサレム市に、アラブ一

六、アラブ人地区、ユダヤ人地区設立、または、統一拡大アラブーイスラエル監督下に、独自の地域または市町村議会を設立する計画案の導入。

七、ヨルダン川—西岸、ヨルダン—ガザ道路を、特別に（現在あるもの以外に）建設する。

—出典 アトランタ・コンステイテューション紙が転載したハツフィエハ紙（八七九年五月二一日号）から。

ちなみに、第一段階、つまり過渡的段階の措置としては、

一、イスラエル—ヨルダンが共同して公認するイスラエル—ヨルダン当局の設立。

二、統一エルサレムの東地区にヨルダン警官隊を編成していく一方、嘆きの壁には、イスラエル旗を掲げる。

三、この段階では、新規入植村建設は行わない。

四、この段階における入植村の地位は、機能的なものであり、地域的な性格ではない。

一、イスラエル—ヨルダンが共同し

二、統一エルサレムの東地区にヨルダン警官隊を編成していく一方、嘆きの壁には、イスラエル旗を掲げる。

三、この段階では、新規入植村建設は行わない。

四、この段階における入植村の地位は、機能的なものであり、地域的な性格ではない。

八、パレスチナ人は、ヨルダン一派の主張に強要することもできない。

七、二国間委員会の進める交渉は、独自になされるべきであり、他の二国間委員会の交渉の進展に規制されない。

六、交渉の基盤は、国連決議二四二一、および三三八とすべきである。

五、国際会議は、前出の二国間委員会が作った合意への拒否権を有さず、国際会議としての意志をそれらの主体に強要することもできない。

四、国際会議を、地理的要素に合った、小規模の、二国間委員会に分けることになるだろう。そのうちの一つは、ヨルダン一ペレスチナ委員会とすべきである。

三、全参加者は、すべての調整点、規制に事前合意すべきである。

二、全当事者と関係を有する者のみが同会議に出席すべきであるという点に、イスラエルは固執する。

ヨルダンは、それを理解はするが、前提条件とは考えない。

一、国際会議参加者に関する事前合意を作らねばならない。

五、国際会議は、前出の二国間委員

会が作った合意への拒否権を有さず、国際會議としての意志をそれらの主体に強要することもできな
い。

六、交渉の基盤は、国連決議二四二一、
および三三八とすべきである。

七、二国間委員会の進める交渉は、
独自になされるべきであり、他の
二国間委員会の交渉の進展に規制
されない。

LOが再統一を達成してからは、これが、大きな障害となつてゐる。公式のアラブの政策が低調化しているとはいへ、フェイインがやつてしまつたことを了承するところまで、アラブとしての見解の一一致はない。さらには、PLOとしては、パレスチナの大義に関連したすべての国連決議を土台とし、全関連者が平等の資格で参加する、そして国連が提唱し、完全な強制力をもつた国際会議開催要求を、公式に行つてゐる。

第三の障害は、国際会議に関してイスラエル内の公式の一致が作れていないという問題である。フェイイン国王との合意に調印したのは、現イスラエル政府の半分、労働党部分のみでしかない。もう片方つまり、シヤミル率いるリクードは、国際会議という方式 자체に反対している。これは周知の事実である。閣外へ去り早期選舉に訴えると、ペレスが脅したのはよいが、イスラエル議会での力のバランスは、ペレスに有利ではなかつた。リクードのほうは、極右の右派政黨の支持とりつけに成功していた。そこで、ペレスは、この脅しをとり下げたのである。

覺者書

さて、公正でかつ包括的な性格の国際会議開催へむけた努力、主要には、ソ連の努力である。ソ連のこの考えは、P L O の展望するものと一致している。

こうした事実を知りつつ、ヨルダン政府は、米の「和平」努力の推進者としての政策展開を続けている。そこにおいて、ヨルダン政府は、労働党の対立クード紛争において、労働党を支援しているのである。

覚え書き

四月一一日に、フセイン国王—シンモン・ペレスが合意した覚え書きとは、六七年の戦争でイスラエルが占領した土地に、共同統治を強制する策動を進めるなどを狙っている。同文書の言い分から、シャミルの国際会議への反対の立場、P L O の再統一達成にもめげず、あくまで共同統治を進めたいとするヨルダン、労働党の野望は一目瞭然である。その種の文書としては初めてのこととして、同覚え書きでは、六七年戦争で占領した領土のほとんどから、イスラエルが段階的に撤退していくという点が、明らかにされている。この新しい動きは、フセイン国王がイスラエルの占領により共同してくるよう

その覚え書きも、共同統治に関する最初の合意も、ヨルダン渓谷沿いの防衛線保持権を「イスラエル」に保留させたものである。そして、シオニスト入植者が、西岸、ガザ両地区に住む権利を認めている。こうして、被占領地に対するイスラエルの軍事支配は、基本的には安泰なのである。この覚え書きの存在が流れたとき、五月末、シャミルは、イタリアのレプロリカ紙にこう回答した。すなわち、「我々は、和平と交換に土地を返す」という原則を拒否し、平和のために平和を作るという原則のみをうけ入れる」。つまり、六七年ラインの八五%を返還するのを交換に出たのは、ペレス個人でしかなく、イスラエル政府としての見解ではないということを、フセインに伝えたのであった。こうして、国際会議の交換に米－イスラエルの諸要求を全面的に受け入れたヨルダン政府に対し、シャミルは、そんな会議はうけ入れない、イスラエルが被占領地から撤収することはないと回答したのである。実際には、このちゅうちょというものは、アラブ側からもっと譲歩をひ

卷之三

木の接唱する解決策の危険性
こうした状況下で、ワシントンとしては、一定レベルの外交展開を行なう続けるしかない。つまり、八月、シユルツ補佐官チャールズ・ヒルのテルアビブへの派遣とか。それも、なんらかの解決策が近く実行されるかも知れないという幻想をふりまくためなのである。アラブ反動諸国、とくにエジプトとヨルダンは、これまで米国のいう解決策なるものが一向に進んでいないにもかかわらず、こうした動きがあると元気づけられ、

答・パレスチナ、レバノン問題で損害を受けた勢力は数多いと、すでに宣言した。キャンプ戦争問題は、レバノンの政治情勢に直接関与していく前提を実としてあるから、そこからレバノンの国民的決定作りの過程にわりこんでいこうと考へている者が一部に存在する。

また、他の者は、レバノンの政治決定作りとその実行過程に発言力をもって関与していくために、そこここの地域で自派勢力を動員し、レバノン情勢を自派に有利な宗派的方式で片づけようとして、

問・ベリ大臣のイニシアチブの実行がなく、大爆発があるだろうといふのが、あなたの説でした。もうなつたら、レバノン中のすべてのパレスチナ・キャンプにその爆発がひろがるのでしょうか？

答・ええ。確かに、九月一一日合意実行以外には、すべての者に影響を与える大爆発があるだけと私は言つた。今でも、この見解は同じである。サイダ東部で、アマル運動とパレスチナ勢力の衝突が最近起っているが、これは、その見

問・PLA（人民解放軍）は、サイダ東部のその衝突のとき、どういう立場にあつたのですか？反アマルで、パレスチナ側に立つたのか、その逆だったのか？

答・今日までの三年間、我々PLAは、クファール・ファルスリバ・アイネル・ミール戦線で、敵と対峙してきた。キャンプ戦争の当事者勢力の守備位置をひきつづように要請されたとき、レバノン民族主義者とパレスチナ勢力との結

いへん神聖なた 我々は 開拓う
パレスチナーレバノンの団結を支
持してきたし、その立場から、レ
バノン一パレスチナ勢力どうしの
紛争には入らないようにしてきた。
我々の考え方では、その紛争は、民
族主義の課題から目をそらさせよう
とする陰謀なのである。そこから、
八二年以降の状況にはもどさない
とするアマル運動、パレスチナ人
両方を支持していた。だから、こ
うした我々の立場の意義をすべて
の者の肝に銘じてほしい。

には、このキャンプ戦争をしても前面に出しておくこと、キャンプ戦争解決を断固妨害することに精力を費やしている者がいるが、このことは、事実として私は確認している。そういう動きは、宗派利害の枠内の発想であり、敵シオニストに利するのみである。そして前出の二つの要素の裏には、イスラエルがもぐろむ「保安措置」を作り上げようと暗躍するイスラエルの動きがある。

カリシングア戦争をその突破口とみた
しているのである。

ベリ大臣のイニシアチブは、U
L Fが採択し、八七年九月一一日
合意に到つていく土台であったが
このイニシアチブの内部相関性は
二重のものがあると、我々は考え
ている。紛争の当事者を含む誰も
が、このイニシアチブをうけ入れ
口では実行するとうけ合つてゐる
が、同じ人たちが、人道的・社会
的問題を楯に、そして、再建か、
それとも撤退かいずれをまず行う

解の正しいを証明するものである
もし、この合意が実行されないな
ら、この紛争の当事者勢力のいる
場所で、ペイルート、南部を問わ
ず、衝突が拡大していくだろう。
だから、誰もマヌーバーを使つ
てはならない。民族主義の大義を
決定的に終息させ、レバノンとパ
レスチナの両人民が共通の闘いが
できなくなってしまうような、そ
んな状況にならないように、すべ
ての勢力が、両人民に慈悲の心を
持つてあたらねばならない。さも

合戦の役目を果たすべく、ひき受けたものだ。先週P.L.Aの守備位置に対し、攻撃がかけられたことから、アマル運動の兄弟たちとの論争になつたが、それは別にパレスチナへのひいきでもなければ、アマル運動への憎悪からやつしたことでもない。我々が三年間駐留してきた戦線への攻撃だったので、我々は防衛しただけである。誰でも、好きなように我々を批判したらいいし、銃撃したければやつたらい。しかし、この戦線だ

九、諸参加者との連携の上に、また了承をかちとった後で、国連総長が、国際会議開催を招請する。

一〇、二国間委員会の作業が進展しなくなつたら、そのつど、国際会議を開いていく。その招請方法では、両者が国際会議へのもちこみに合意した時点でとするのがイスラエルの主張だが、ヨルダンは、どちらか一方が要求することとしている。

—出典　ハアレツ紙（八七年二月三日号）

- ・ 被占領地では、新規の入植村建設は行わず、現存入植村拡張工事もしない。
- ・ ソ連の参加する国際会議開催に同意した。イスラエルは、了承の条件として、ソ連に関係回復を要求する。
- ・ ヨルダンは、国際会議にシリア、PLOの参加を要求する。イスラエルは、シリア参加は認めるが、PLOは認めない。
- ・ エルサレムの扱い…とり決めない。
- ・ エルサレム問題は、とり決めを作らない。ジャバル・アル・ベイトにおけるヨルダンの存在、そこにヨルダン旗を掲げることにも、イスラエルは合意する。
- ・ 西岸の土地は、共同統治対象であり、双方が拒否権を有する。
- ・ 過渡期の期間として、イスラエルは五年間を、ヨルダンは三年間を要求して、

ムスタファ・サアド氏 インタビュー

アンマンで開催されることになります。アラブ・サミットにむけ、アラファトが地歩を固めようとしていたものだと考えますか？

合
◎・サイダをゆるがせたこの間の爆発は、二つの要素によるものです。第一には、キャンプ戦争が収まらず、キャンプ戦争解決策ができるないこと。そこから、双方が相手に対して信頼できずに、おそれをつけさせているという構造になっている。第二には、ULF代表、パレスチナ統一代表との会談が中止されていること。この間、その種の会談は私の自宅で重ね、それが九月一日の合意まで到つていたのですが。

その合意の誤解から、先週発生したような緊張激化を招くような障害が生じたのだ。この緊張激化を、アンマンでのアラブ・サミットに先立ち、なんとか「注目」的になろうとしているヤセル・アラファトが、先述の二つの要素を

レスチナ合同代表団が代表すべきであり、パレスチナ人代表は、いかなるテロリスト組織の同盟員でもなく、信頼に足る人士にすべきである。

備は、西岸側では、ヨルダン、イスラエルが担い、ヨルダン側ではヨルダン当局が担う。
選挙と入植村凍結

この案は、被占領地における軍事支配廃止をよびかけるものである。軍事に關係のない諸問題は、ヨルダ

（編注）行われたインタビューである――

次に「国際テロリズム」なるものについてだが、特筆に値するのは、日本は、サミット直前にパリで開催された会議に自治相（国家公安委員会委員長）を派遣していることである。この種の会議に日本が参加するのは、これが初めてであった。米帝が反帝勢力に対し構築している「反テロ」網に日本も参加したこと、そして、米の軍事戦略に基づく「低強度戦争」の前線に立ったということは、明らかである。これまで、日本政府は、「テロリスト」を犯罪もしくは社会問題とみなしてきていた。

日米は、「貿易摩擦」が原因であわや戦争かというところまで行つたのだが、日帝は、米帝と違っている。経済的延命上では米帝と闘争せねばならない反面、社会主義諸国を含む反帝勢力との闘争という面では、米帝と共同、もしくは、米帝に依存せねばならないのである。この矛盾か

が、日帝にとつては経済関係のレベ
ルといえども、米帝の意向をうけ入
れていかねばならぬほど、大切なも
のとしてある。

第三に、だが、経済危機、とくに
コンピュータ・チップスに対する制
裁という貿易制裁は、対米関係を再
考せざるをえないところまで日本を
追いつめていくだろう。支配階級の
中には、米に屈せずに日本独自の道
をとるよう、政府に要求し始める
部分がいる。彼らは、現在では、ま
だ少数派である。しかし、コンピュ
ータ・チップス問題は、日帝にとつ
ては死活問題なのである。もし米帝
が日本の貿易に対してその態度をと
り続けるようなら、日本經濟は大打
撃をうけることになるだろう。

日本の国内政策をみてみると、日
本政府が自らの目的を達するべく全
面的に「独自」の方式をとっている
のは一目瞭然である。その第一の指

が日本を袋叩きにしなかったことだと、中曾根は言っている。事実、このサミットでは勝者も敗者もなく、サミット参加国の顔を立てあつたのであつた。つまり、例年のこのサミットで、なんら実質的な問題について合意しなかつたなどということである。サミットに出席したリーダーの中に、は、深刻な国内危機をかかえていた者もいたからである。たとえば、米のレーガン大統領のように。彼らは政治ショーとして、つつがなく終らせたかったのである。サミット直前に、中曾根—レーガン会談がもたらされ、中曾根は旧友ロレンから貿易制裁の部分解除といううつましい贈り物をもらつた。が、レーガン大統領は、日本の首相に対し、日本のコンピュータ・チップスの第三国におけるダンピングが減ったことに満足の意を表明した。そして、部分解除されたのは、貿易制裁の総体のたつた一七%

中曾根への批判の声は高まり、日本独占界の反米感情はつのった。事実貿易制裁の八三%はまだ実行されおり、日本の貿易に對してさらなる圧力を米帝はかけてきている。もう一つの死活問題は「弱いドル」である。サミット出席席リーダーたちは、ドルは十分値下りりしたし、交換レートの実質的変更は非生産的になりかないという点で合意した。

日本の首相はこの合意に満足を表明したもの、二月のパリ合意、四月のワシントン合意の再確認以上のものではなかった。

サミット直後の記者会見で、米国のレーガン大統領は自分の友人たる日本の首相に、ドルの価値が世界の通貨に対してもっと下るかもしけないと伝えた。レーガンは、日本経済をさらに苦境に追いこむために、ドルをもつと下げるということを意味したのである。他の通商問題では、

今のこと 变わっていない、それは、私が信ずるところの民族主義者としての理解から発したものだ。実行へむけた善意と誠意の意義を強調したうえで、九月一日合意実践のつめを行う会議をやったいというのなら、喜んで後援をさせてもらいたい。この二つの条件は、アマル運動、パレスチナ側双方に、率直に伝えてある。

問・サイダ東部でのこの間の情勢の後では、あなたとベリ大臣の関係はどうですか？

答・時には一定の紛争が起つたし今後も起るかもしないが、兄弟ベリと私の関係は、肯定的であり、良好なものとして続く。我々が心から尊敬するベリ大臣との良好な個人的関係は、（我々はこの良好な関係の維持に気を配っているが）多くの意見を一つに近づけていくうえで重要な役割を果たしているので、重要なのである。

政治レベルで、我々が共通の立場に立っているということも、重要である。我々が共通の大義を掲げていること、我々が一つの民族に属しており、同じ地域の住民であることから、アラブ主義・民主

族レジスタンスも多くを捧げて闘つてきてる。

ベニス・サミットは、八七年の六月九し一一日に、日米合む主要工業国、資本主義国を集めて開催されたが、自らの帝国主義権益が関連している限りにおいて、帝国主義間の協力と協同の大きさを反映した。まず、ガルフ問題においては、日本は米の砲艦外交を支持し、軍事的方法を除いて、可能な限りあらゆる援助を行つた（それは、ガルフにおける最近の米海軍の大戦力投入以前の話だが）。ガルフでの安全航行、ガルフ戦終結は、日本にとっては大変重要な問題なのである。というのも、輸入石油のうち五五・七%はガルフからのものであり、共同石化プラント等イラン、イラク双方に日本は権益を有しているからである。しかし、日本国憲法は、軍隊の海外派遣を禁止しているし、国民の反戦感情は、海外派兵という考えに反対するであろう。

問…パレスチナ人、アマルの代表との会見は、まだ拒否していますか？

て、リビアのアラブ領土防衛のために戦士を派遣するほうが、レバノンの路上での闘いに戦士を送るより、はるかによいことだとあえ

主義、民族主義の基盤の上に、私は安定した関係性をアマル運動との間に作ろうと必死に努力している。＊アルウフ・サアド烈士と

資料③ 紛争問題の国際帝国主義——日本が、ハシハシ

紛争間際の国際帝国主義 ——日本は、ワシントン との関係を再考すべき——

日本の貿易超過利益を経済困難に直面している国々、たとえばアフリカのサハラ以南の国々に対しても二〇〇億ドルを環流させる計画を披露した。この中曾根提案は、サミット出席者から歓迎を受けた。この提案は、日本が巨大なそして増大を重ねる貿易超過利益のは正を行っていないとして非難的になるのをかわすためであり、日帝が第三世界の貧困諸国に君臨するための「ローレン」（「援助」ではない）を意味したのである。

第三に、日本政府が重大かつ戦略的问题において米政府を支援しているというのは、よく知れわたっている。最もものは、「中距離核軍縮」問題である。「ソ連の脅威」への報復として、アラスカに中距離核を配備するよう、中曾根は米国に訴えた。中曾根のこの主張は、LDPの同僚からさえも批判された。それらのミサイル配備は、アジア大陸のどこであろうと、提案すべきではなかった。彼らは、また、欧大陸における両超大国間の核戦争勃発の危険性を削減するために、全中距離核ミサイルの撤廃を主張すべきであったと主張したのであった。

最後に、中曾根が、サミット参

族主義的・進歩的勢力に訴えている。そこからみたとき、大衆の指導を担うPLO、そして、パレスチナの全勢力は、次のストーラーの下に結集せねばならない。つまり、パレスチナ大衆の不退転性の支援に、あらゆる努力を！ 占領と占領政策に対決していくことに全力を！ イスラエル・ヨルダン合同統治政策廃止に全力を注ごう！

レバノン

レバノン情勢は、最近、危険なところまで悪化していた。レバノン、パレスチナ両人民の広範な部分が飢えにさらされた。保安状況も、著しく悪化してきた。——ペイント、南部におけるパレスチナ・キャンプ包围鎖も続いている。パレスチナ人の民族的役割と武装プレゼンスを消滅させんとして、パレスチナ人をレバノンから追い出す企ても、相変わらず続いた。レバノン、パレスチナ人大衆に対するイスラエルの侵略は続き、この間のサイダ周辺のキャンプ爆撃にみられるように、多くの被害をこうむってきている。こうしたことから、レバノン・パレスチナの民族主義者の隊伍を整え、共通の敵打倒のために、全力をつくして闘

・アラファト議長、「国連、国際會議の場でなら、イスラエルと会つてもよい」と発言。

一〇月二二日(木) ガルフ戦

- ・イラン－キューバ経済・貿易・技術・科学合意調印。
- ・イラン、クウェートのアハマディ港をミサイル攻撃。

一〇月二三日(金) ガルフ戦争

- ・空母「レインジャー」から発進したA機、一機海中に墜落。
- ・米国務省北アフリカ・西アジア局長マーフィー、レバノン首相代行ホス、大統領ジェマイエルと会談。

一〇月二十四日(土) ガルフ戦争

- ・クウェートで爆弾。バン・ナム・ビル近く。

一〇月二十五日(日) ガルフ戦争

- ・GCC外相・蔵相会議。イラク外相も参加。
- ・ジェマイエル大統領、突然カイロへ飛び、ムバラクと会談。
- ・イスラエル
- ・西岸ナブルス市のアル・コツツ紙

に二年間の発禁処分。
ガザの一校を閉鎖。

一〇月二六日(月) ガルフ戦

- ・レーガン大統領、対イラン輸入禁止、輸出規制強化を発表。
- ・アルジェリア外相、今日からシリア、ヨルダン、サウジ工作(二八日まで)。
- ・サウジ国王、八八年未まで石油値上げしないと発表。

一〇月二七日(火) ガルフ戦争

- ・西岸、ベツレヘム市近郊のダハジエ・キャンプがイスラエルの手に入れをうけ、一八人が検挙された。
- ・北部のトリポリ市内で爆弾。
- ・アルジェリア・チュニジア・モーリタニアの友好条約にリビアも参加していく動き。

一〇月二九日(木) パレスチナの力 PLO

- ・PLO代表、モロッコ国王とラバシム村大虐殺三十一年周年
- トで会談。

一〇月三〇日(金) イスラエル

- ・国防相ラビン、米帝のガルフ戦介入に批判的。また、財政赤字削減のため、米帝が対イスラエル軍事援助にも手をつけようとしていることを、強く批判。
- ・イスラエル
- ・西岸ナブルス市のアル・コツツ紙

ガルフ戦争
にいすわっているとされる)。

一〇月二八日(水) ガルフ戦

- ・ソ連第一副外相ヴァロンツォフ、イラン工作(一一月一日まで)。
- ・米国務省、同盟国に対し、対iran禁輸をよびかけていると発表。
- ・ヨルダン外相、カイロへ。
- ・東ベイルートの仏大使館ガード二名が殺された。

一〇月三一日 イスラエル

- ・シン・ペトの拷問、いきすぎ尋問調査特別委員会が、報告書提出された。
- ・シリアのカセム内閣総辞職。裁判になつても、偽証していたことが明かるみに出た。

一〇月二九日(木) パレスチナの力 PLO

- ・シム村大虐殺三十一年周年

一〇月三一日 イスラエル

- ・PLO代表、モロッコ国王とラバシム村大虐殺三十一年周年

一〇月三〇日(金) ガルフ戦争

- ・米帝、「イラン高速艇とおぼしき船舶」をヘリ攻撃(じつはUAEの漁船で、インド人漁民一名が殺された)。

・南部で、二カ村に夜襲をかける寸前のイスラエル、「S LA」大部隊を、レジスタンスが逆襲した(イスラエル軍「〇〇〇」「S L A」三〇〇〇が「セキュリティゾーン」にいすわっているとされる)。

一〇月三〇日(金) ガルフ戦

- ・南部で、二カ村に夜襲をかける寸前のイスラエル、「S LA」大部隊を、レジスタンスが逆襲した(イスラエル軍「〇〇〇」「S L A」三〇〇〇が「セキュリティゾーン」にいすわっているとされる)。

一〇月三一日 イスラエル

- ・シリアのカセム内閣総辞職。裁判になつても、偽証していたことが明かるみに出た。

一〇月二九日(木) パレスチナの力 PLO

- ・シム村大虐殺三十一年周年

一〇月二九日(木) イスラエル

- ・PLO代表、モロッコ国王とラバシム村大虐殺三十一年周年

一〇月三〇日(金) ガルフ戦争

- ・米帝、「イラン高速艇とおぼしき船舶」をヘリ攻撃(じつはUAEの漁船で、インド人漁民一名が殺された)。

迎春

一九八八年が幸多い年でありますようお祈りします

一九八八年元旦

TOKYO後記